

### 市制元年に向けた 予算編成は 財政負担を考慮し 改革とサービスに努める



日本共産党  
桜井 博義議員

**問** 住民が村から市としての実感が持てるような予算配分に努めるべきと考えます。市制元年に向けた予算編成の考えは。

**答** 新たに福祉分野に生活福祉課の事務が移譲される。それ以外に住民環境課では騒音・悪臭関係事務、商工観光課では品質保持など自らの事務でサービスが向上されます。

**問** 概算要求では従来の計上方法にとらわれず、ゼロベースで見直します。その中で、将来の財政負担も考慮し、財源の効率化と満足度の高い行政サービスを提供しながら改革に努めます。

「住民自治日本一」の予算では、これまでのマインド支援事業、スクールガードや健康づくりなどを支援、検討します。

**問** 市制移行にともない行政機能が強化されると思いますが、住民サービスにどう結びつけるのか。

また、「住民自治日本一」をめざす位置付けと予算措置の考えは。

**答** 厳しい財政運営を乗り越えるためにも市となる必要性を住民に訴えてきましたが、財政運営と住民のニーズ、声にどう取り組むのか。

**答** 今後、社会保障費の増加、大規模施設等の整備などで村債残高

が増え、厳しい財政運営が予想されます。住民との対話を重視し、サービス向上に繋がります。

**問** 職員の意識改革、資質向上を図るとしてありますが、予算編成でどう位置づけ、どのような施策で資質向上に繋げるのか。

**答** 市としての交流、情報交換が増え、先進事例等も多く共有できるものと期待します。

### 食品偽装の 監視体制は 確認作業を 徹底し対応します



相原 孝彦議員

**問** 食品偽装に対する学校給食センターの監視体制は。

**答** 学校給食で使用する食品は、「学校給食衛生管理基準」に基づく検収・確認を行うため、納入業者に「給食物資検収表」の提出を求め、内容及び食品の品質や鮮度などを栄養士等で確認し使用しています。

**特別支援学級への対応**

**問** 特別支援学級での不登校への対応策は。

**答** 不登校の要因については、生徒によって千差万別ですが、教育環境が大きく変化する小学校から中学校への接続時は、十分に留意が必要と考えられています。

さらに、野菜などの生鮮品以外の魚肉類や加工品などは、製品規格書等により確認を行っており、食品偽装はないと考えています。今後も、使用する食材の確認作業を徹底するとともに、滝沢産や県産品の使用に努め、安全・安心な学校給食の提供に努めます。

村は中学校区ごとに小中連携ジョイントアップ・スクール事業を進めており、特別支援学級でも、年度末に小学校で一人一人の児童の個票を作成し、中学校への情報提供や配慮事項などの共有を図っており、支援・指導の連続性を大切にして、取り組んでいます。

### 受診率の向上に向けて

**問** 受診率向上に有効な「健康マイレージ」に取組んでは。

**答** 村は「地域健康づくり連絡会」を各自治会毎に開催し、受診率向上のための方策も話し合っています。

受診率を伸ばした自治会に対しては表彰するなど、評価の仕組みの導入も検討します。

個人的な取組としての「健康マイレージ」については、今後、研究します。

※「健康マイレージ」は、健康診断の受診やスポーツ活動への参加など、健康づくりへの取組をポイント化し、貯めたポイントで特典を利用したり、賞品を獲得したりするなど、個人的な健康づくりを誘導する仕組み。

**問** 高齢世帯で所得の低い人に対し、持っている不動産を担保に金銭の貸し出し制度（リバースモーゲージ）を関係する人達で協議会を作り検討してみていますか。

**答** 武蔵野市では、居住用不動産があり、現金収入が少ない高齢者等が武蔵野市福祉公社と契約して、居住用不動産を担保に福祉資金を貸付け、死亡後に精算、返還する制度を設けております。

主体となつて運営している、「要保護世帯向け不動産担保型生活資金」及び「不動産担保型生活資金」についての周知や説明等に努め、社会福祉協議会と連携しながら、制度の活用支援をします。

**問** 滝沢中学校の校庭に夜間照明設置を

**問** 新市移行後も市民の健康増進に対して市と市民が一体となつて取り組む必要があります。

**答** 滝沢中学校区内の住民の多くが、子どもから高齢者までが趣味、運動に取り組みめる夜間照明設置を望んでいます。

このリバースモーゲージ制度への対応については、国の制度があり、運用面で相応の財政負担が生じること等の課題があります。

夜間照明設置に向けた地元住民や関係する人達との協議をすべき

### 高齢者へ福祉資金 貸出し事業の検討を 社会福祉協議会と連携し 制度の活用支援を



新志会  
山谷 仁議員



### 村の花「やまゆり」の 保護育成増殖の考えは 咲き続ける環境を維持し 保護に努めます



春緑クラブ  
日向 清一議員



**問** 村の花・鳥・木の保護は。

**答** 村の花鳥木のヤマユリ、カッコウ、ベニヤマザクラは「自然に親しみ、慈しむ心を育てよう」という趣旨のもと、公募により昭和50年11月15日に制定したものです。

**問** 村内のやまゆりの生育の状況は。

**答** 第10回全国やまゆりサミットにおいて、総合公園とお山の湯に植えたもののほか、自治会、まちづくり委員会などの取組みで保護しているものもありますが、環境の変化等により減少傾向にありまして、減少の原因は、やまゆりの特性とも考えられます。

**問** やまゆりの今後の保護、育成、増殖は。

**答** シンボルフラワーである「やまゆり」が滝沢に咲き続ける環境を維持し、地域の皆さんの継続的な協力の下、保護に努めます。

**問** 「ゆりの里」として滝沢市の特産の考えは。

**答** 高度な栽培技術の習得と栽培面積の確保が必要で生産者の理解と協力が重要であり、可能性は難しいと考えています。